

もんじゅを廃炉に！ 9・23関西集会に参加しました！！

9月23日、天王寺区民センターにて大阪平和人権センターの呼びかけで「もんじゅを廃炉に！関西集会」が開催されました。私たちJR東海労もJR総連大阪府協の仲間たちとともに集会に参加してきました。集会ではDVDの上映から始まり、九州大学副学長・吉岡斉さんの公演を受けました。その後、休憩を挟んで福島みずほさん・福山哲朗さん・山本太郎さんら三名の国会議員のパネルトークを受け、最後に集会決議を採択しました。集会終了後は、全員で元気よく大阪ナンバをデモ行進、もんじゅの廃炉を訴えてきました。



集会決議

今日、私たちは「もんじゅを廃炉に！」の強い思いを持って、関西各地から集まりました。開発から半世紀、1兆円という莫大な国費を投じてきた高速増殖炉「もんじゅ」は、一体、国民に何をもたらしただしょうか。1995年12月、ナトリウム火災事故を起こして停止、2010年に3トンもの炉内中継装置を落下させて再び頓挫し、2012年1万3千件もの機器の点検漏れが発覚、原子力規制委員会も「こんな組織に任せられない」とあきれ、「もんじゅ」の運転再開準備の停止を命じました。しかし文科省は8月8日、組織と名称を変えて「もんじゅ」の研究開発を継続すると発表しました。18年間もまともに動いていない炉を再び動かすなど世界に例がなく、言語道断、正気の沙汰ではありません。「原子力依存からの脱却」というのなら、核燃料サイクル政策とは矛盾します。再処理も頓挫し、実用化の目処も全くない中で、どこをどう探しても「もんじゅ」を継続する大義名分はかけらもありません。原発はひとたび大事故を起こすとどうなるか、今、私たちは福島で目の当たりにしています。安倍総理の発言とは裏腹に、汚染水は「毎日600億ベクレル」外洋に放出されていると9月19日、報道されました。もはや制御不能ではないかと絶望的になってしまいます。まして「もんじゅ」には1400キログラムのプルトニウムと1700トンのナトリウムがあり、止まっても安心できないのです。一刻も早く廃炉を決断するよう強く求めます。